

第5次芦屋市総合計画 基本構想(案) 概要

将来像(仮)

みんなの声を活かして 次世代へと人がつながり 誰もがイキイキと活躍できる 情報発信の基地・基盤『ASHIYA BASE』をつくる

未来の創造

心弾むまちを未来へつなぐ創造のデザイン

日本は、少子高齢化・人口減少局面を迎えており、世界でも類を見ない課題先進国です。

芦屋市でも、人口はまもなくピークを越え、減少局面を迎えるとともに少子高齢化はさらに進むと想定されます。これらの社会の変化を見据えながら持続可能なまちづくりを進めることがますます重要になります。特に、その担い手となる人材をどう育てるのが肝要です。

まちは「今」だけではなく、未来へ受け継がれます。人口が減少していく中でも、芦屋市を次世代に健全な姿で引き継ぎ、ワクワクできるまちにしていけるために、まちの魅力をどのように守り変えていくのか、市民、行政、企業、地域団体等「オール芦屋」で広い視点を持ち、時代に合った取組を進めていきます。

人のつながり

時代に適い、多様に紡がれるネットワーク

ICTの発達やグローバル化が進み、急速に変化していく時代に今までと同じつながり方を続けることは難しいですが、暮らしやまちを豊かにするためには、人と人とのつながりが必要であることは変わりません。本市のあらゆる施策にも、コミュニティやつながりが重要な要素を占めます。

芦屋市では従来から自治会活動が活発ですが、世代間のギャップや転入者にとって閉鎖的と感じる場合もあるなど、問題もあります。最近では地縁にとらわれない目的型の市民活動も盛んになっていますが、幅広い市民への周知・浸透や相互連携など課題もみられます。

これからは、事業者を含めた市民が協力し合いながら、市民力によるまちづくりが一層求められます。今までの良さも認めながら、その時代、その地域、その人に合った交流のあり方を築いていきます。

暮らしやすさ

それぞれが安らぎと包まりを感じる暮らし

安心便利に生活を送れる環境が整っていることは、安定した市民生活の基本です。本市が経験した阪神・淡路大震災の記憶を継承しながら、近年頻発する大規模自然災害や今後発生が懸念される南海トラフ地震への対応など、安全・安心に暮らせるまちづくりが求められています。

また、コンパクトな都市である芦屋市は、鉄道等が発達した便利なまちですが、一方で地形やまちの成り立ちによって地域毎に特性があり、暮らし市民も多様で、それぞれのニーズに対応していく必要があります。

子どもや高齢者など、様々な背景を持つ人が居住する中で、お互いに認め合い、お互いに助け合いながら包摂的なまちをデザインし、あらゆる人が安心して暮らしやすく、それぞれのスタイルで活躍できるようなまちづくりを目指して取り組みます。

資源

地域資源を活かす、これまでとこれからの融合

地域にはハード・ソフトの様々な資源があり、これがまちづくりの源泉となります。芦屋市は、山や海の自然に囲まれ、各時代の歴史の舞台にも登場し、多くの文化人を生み出すなど、伝統や文化も含めて魅力的な資源のあるまちであり、整備されたまちなみと暮らし文化が芦屋のイメージをつくってきました。

しかし、時代の変化につれて徐々にその姿を変えてきています。その魅力を市民があまり知らない、十分生かされていないという問題もあります。また、時には新しい価値観が既存資源と対立することもあります。

これまで築いてきた芦屋市が誇る資源について、残すべきものは残し、また、既存のものに新たな価値を加えるなど変えるべきものは変え、時代とともに新たな芦屋スタイルとして進化させ、活用していきます。